

令和4年度 学校評価一覧シート

愛知県立半田工科高等学校

項目担当	本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の能力の向上を図る。 開かれた学校づくりを推進し、地域への情報発信をより高め生徒募集に繋げる。 自己表現できる人間の育成に努め、思いやりの心を醸成させる。 	
	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の企画と見直し、行事の円滑化を図る。 P T Aとの連携を深める。 防災教育の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省を踏まえた企画・運営をする。 P T A活動の活発化に努める。また、P T A活動等の案内について、メール配信を積極的に活用する。 高校生防災セミナーに参加し、防災意識の高揚を図る。また、防災意識の向上につながる防災訓練の実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の見直しや改善をし、運営することができた。 P T A活動や学校行事の案内について、メール配信を積極的に行い、活発に行うことができた。 文化祭において、防災展示を行い、意識付けができた。また、複数回の防災訓練も行うことができた。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学力を向上させる。 広報活動の充実 学科選択・科目選択に関する申し合わせ事項を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高める。 授業を大切にする。 (授業規律、成績不振者指導等) 中学校の進路説明会や、地域交流を通じ本校の様子について伝える。 学習指導委員会において、生徒の適性や進路に応じた学科・科目が選択できるよう見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切にする意識を高め、学力の向上につなげることができた。 学習意欲や知識・理解を高めるため、I C Tを積極的に活用していく。 追試該当者、追試不合格者に対する指導により、一定の成果が得られた。 中学校の進路説明会や中学校訪問において、本校の情報発信ができた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、身だしなみを整える等、生徒自ら主体的に行動できるようにする。 安全・安心な学校生活の実現。 遅刻、欠席しない基本的な生活習慣の確立。 いじめの未然防止、早期発見、適切な対処。 薬物乱用防止に向けての啓発活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 校門指導で挨拶の励行も行い、身だしなみ指導も年間8回実施するが、生徒自ら行動に移せるように働きかけていく。 講話の実施や、全体、HR単位、部活動単位または個人に対し全職員で協力して指導する。命の大切さを伝えるとともに、人権に関する指導の充実と、交通事故の防止に努める。 生活アンケートを利用した情報収集と、家庭や地域社会との連携を図り、いじめの未然防止・早期発見に努める。また情報を職員間で共有し、いじめ防止対策委員が中心となり全職員で組織的に対応し、いじめの根絶をめざす。 薬物についての危険性を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導では生徒から積極的に挨拶するなどの成果を得られた。しかし、身だしなみ指導では、自ら行動に移せるまでには至っていない。 講師を招いて生の声を伝えることで、生徒の琴線に触れることができた。 生活アンケートをもとに担任による面談を行い、現状問題の解決につながるなど成果が得られた。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の高揚を図る。 自分に合った進路選択をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の目標を持たせ、自己実現に必要な能力を伸長できるように援助する。 勤労観・職業観を育成するため、進路への知見を広めさせる情報提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を学期毎と、3学年では3回の予備調査を行って、自分の進路について考える機会をつくった。就職模擬試験と他の試験対策も行うことができた。 進路講話・卒業生による講話などに加え、コロナ禍で実施できなかった工場見学や就業体験などの実体験不足を少しでも補うように、企業説明会を行った。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 健康への意識を高め、感染症予防にも努め、心身ともに健康的な学校生活が送れるようにする。 学校生活における不安や悩みの早期発見、解決に努める。 日常の清掃に積極的に取り組み、安心安全な学校環境を保つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断、保健講話、毎日の健康観察を通じて健康への意識を高める。 こまめな換気、消毒薬・手洗石鹸補充をし、感染症予防に努める。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、担任、相談係と連携し、教育相談体制の充実をはかり、情報を共有し問題解決に取り組む。 清掃を毎日全員で実施し、ごみの分別、環境美化、校内整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種健診を予定通り進めることができ、朝の健康観察によって生徒の健康状況を把握することができた。保健講話では「がん教育」の講話を行い、健康への意識付けができた。 感染症予防の注意喚起を行い、教室の換気・加湿等を行えた。 個々の生徒の相談の都度、会議を行い、相談係・担任との情報共有を行った。より支援体制の充実をはかっていく。 厚生委員によるごみの分別作業を通じて、意識付けとごみの削減を実施することができた。
図書情報部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が興味を持てる本の購入や企画を行い、利用し易い図書館を目指す。 校内のICTの強化、DXを推進させる。 ホームページの内容を充実させ、本校の魅力を地域に発信する。 「工科 Times」「半工 Girl's ライフ」の発行を通じて、本校の魅力をアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館だより」を通じて本や企画の紹介を行い、図書館利用を呼びかける。 生徒1台タブレットPCや各種ICT機器を、各教室に設置させる。 開設された新学科のWebページの状況を見ながら、改善点や要望のある内容を充実させる。 中学校の教員や生徒および保護者、地域、企業関係者に積極的にPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりは例年通り発行した。また、昨年度と比較して、普段の貸出や考査前の自習室として、図書館を利用する生徒が増加した。 生徒用タブレットPC及び充電保管庫の設置が完了し、貸し出す環境を整えた。 大きな改善点はないが、不具合もなく、様々な情報を発信することができた。 中学校訪問時に工科-Times や半工 Girl's ライフを配布した。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体となる学校行事運営を目標とする。 ICTを活用し生徒を主体とした学校行事運営を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主的に活動し、全校生徒が協力して学校行事に取り組めるように、生徒会執行部が中心になって企画や運営を行う。また、半田工科高等学校に適した学校行事を検討する。 生徒が本校で学んだICT技術を活用してもらい、生徒主体の行事運営を行う。また、ほとんどのデータをデジタルデータ化し運営していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会部教員の指導のもと、生徒会執行部の生徒が主体的に、体育祭や文化祭などの学校行事の運営を行うことができた。 生徒が本校で学んだICT技術やワード、エクセル操作技術を活用した行事運営ができた。ほとんどのデータを生徒が主体となりデジタル化し運営を行った。また、デジタルデータの記録を残すことができた。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得に取り組むことにより、わからないことへの探究心を身に付け、チャレンジ精神を育て、生徒個々の能力向上を図る。 積極的に地域イベントに参加して、開かれた学校づくりを推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、生徒募集に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格の情報を正確に素早く提供する。提供する方法としてホームページを活用する。 地域連携授業や地域イベントに積極的に参加し、本校の魅力を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格検定の予定を年間行事計画に記入し、ホームページで確認できるようにした。ホームページのお知らせ欄も活用し、情報を提供した。学校の掲示板を利用した情報発信をさらに充実させたい。 半田市子ども科学教室に参加し、ものづくりの楽しさを小学生に発信した。ボランティアの生徒も積極的に小学生や保護者とコミュニケーションをとることができた。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
ロボット工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活指導や実習・課題研究等の授業を大切に、自ら考え行動できる人物を育む。 ・ロボット工学に必要な知識や技能を身に付ける。また、『安全』についても考える機会を与え、危険予知能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・課題研究や座学の授業、定期考査を大切に。そのため授業の開始時間の厳守や、あいさつ、正しい言葉遣いをはじめとした授業規律を確立し、自ら学習できる環境を整える。 ・協働ロボットの制御や、シーケンス制御などをはじめとした、『設備設計・製作』の考え方を基本とし、日々の授業で力を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や座学等で、規律意識を身に付けさせることができた。資格取得に関しても積極的に促し、生徒が自ら挑戦する機会を多く作ることができた。 ・インターンシップ、工場見学などを通して、企業との交流や就業体験などの取り組みを維持することができた。特にロボット工学に必要な制御について、深く学ぶことができた。今後も継続していきたい。
電子機械科・機械科	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の理解に努め、実習や製図などのものづくりの経験を通して、学習に対する姿勢を育む。また、「安全への意識」、「5S」や「報連相」など工業人としての姿勢や考え方を伝え、理解し実践できるように育成する。 ・新しい学科への学習内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科科目に対ししっかり理解させる。特に実習製図など作業を伴う授業では、体験を通して意欲を高める。 ・資格・検定に対して計画的に取り組ませる。 ・外部企業との連携を深めることでキャリア教育の推進を図る。 ・地域の活動に参加し、相互の関連を理解し連携を深める。 ・新しい実習の教育効果があがるように、設備、指導書、実習展開等を検討し、改善する。 ・新しい学習指導要領に沿った評価の観点を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習製図において、実体験としてもものづくりの感覚を養い、達成感を得られるような取り組みができた。 ・新たにアーク溶接技能検定に取り組んでいる。また、希望生徒対象で技能士の実技試験を本校会場で実施できた。 ・校外学習、インターンシップなどの機会を生かし、生徒が企業の状況や求められる人材について考えることができた。 ・課題研究や体験入学などのイベントでは、言語活動の活性化につなげている。 ・新しい設備を十分活用し、実習や課題研究を実施できた。 ・観点別評価について、関係科目で相談が進み、実施できている。
電気科	<ul style="list-style-type: none"> ・電気への興味関心を高めながら、生徒個々の基礎学力とコミュニケーション能力などの向上を図る。 ・生徒が自己表現できる場を提供しながら、開かれた学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業や資格取得のための補習を通して、基礎学力および電気に関する知識と能力を高める指導をする。 ・レポート指導や声かけなどによりコミュニケーション能力の向上を図る。 ・学校行事に積極的に参加させ、地域貢献や他人と協力できる場を提供し、地域への情報発信につなげる。 ・ボランティア活動内容や各種競技大会の結果など、生徒の活躍を学校ホームページで情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得や検定試験のための学習を通して、多くの生徒が電気に関する知識と能力を高めることができた。その結果の一つとして、第二種電気工事士試験に多くの生徒が合格することができた。 ・提出物が出ていない生徒を把握して声かけや指導を行った結果、提出期限を守る意味を少しずつ理解し、改善の傾向が見られた。 ・中学生体験入学で、生徒が本校の説明を行うことで、情報発信すると同時に、生徒のコミュニケーション能力も向上させることができた。 ・競技大会や資格取得の情報を学校ホームページで情報発信した。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
建築科・建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> ・「衣・食・住」という私たちの生活の根幹をなす建築学と、デザインを学ぶことの楽しさと大切さを伝える。 ・専門教科の基礎的能力を向上させ、社会とのつながりを伝え、応用力を養う。建築を学んだことを活かして社会に貢献していくということを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築は人の命と財産を守ることに直接関わっていることと、優れたデザインは私たちの生活を豊かにしていることが伝わるよう、新聞記事や映像を機会あるごとに紹介する。 ・中学生や保護者には、体験入学やホームページを通して、建築デザイン科で学ぶことの楽しさと大切さが伝わるように発信する。 ・製図は二級建築士の試験が手描き製図のため、手描きの指導とし、CADは実習等で指導する。 ・1, 2年生と3年生の法規選択者は卒業後すぐに二級建築士の受験資格を得られることから、人手不足の建築業界で多くの生徒が卒業後に試験に挑戦するような声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震についてのパネルの作成や映像を見せることで、建築に携わる者が人々を守っていることを伝えている。 ・体験入学の準備を入念に行い生徒と職員が協力して取り組んだ結果、参加中学生の約4割が5学科の中でいちばん印象に残ったとアンケートで回答してくれた。 ・手描き製図は建築士の図面にも挑戦した。CAD製図は職員と生徒の努力が実を結び、コンクールで複数人が上位入賞した。 ・芸能人で一級建築士に合格した事例を紹介し、本校卒業で受験資格が7年も短縮されて有利な点を機会あるごとに話した。 ・生徒のために同窓会で緊急購入していただいたパソコンを最大活用し、逆に他校よりも先進的な授業を展開した。建築用パソコンの配備がない状況でも生徒が不利にならないよう諦めず予算要求を続けている。
土木科・都市工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を重視し、建設業において必要となる知識・教養の習得を目指す。 ・細かな生活指導を大切にし、基本的な生活習慣を育む。 ・地域社会との繋がりを大切にし、学外への情報発信もできるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容を基本とし、就業を意識した授業展開を行う。特に国家資格の重要性を伝え、学習意欲を向上させる。 ・日頃より、礼儀、けじめについて、しっかりと指導をする。特に、正しい言葉使いを伝え、社会人としての心構えを身に付けさせる。 ・県内企業との繋がりを大切にし、現場見学会、外部講師による出前授業等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格の重要性と具体的な活用方法について、伝えることができた。また、授業内容と就業内容を関連付けることにより、学習意欲が向上した。 ・礼儀正しい言葉遣いは、多くの生徒においてできている。身だしなみに関しては、指導が難しい部分もあった。お互いの信頼関係を築きながら今後も指導していきたい。 ・企業との繋がりを構築することができ、現場見学会、外部講師による出前授業を実施することができた。
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を把握しながら規律を身に付けさせる。 ・資格取得の励行。 ・学科選択の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの活動における声掛けや、コミュニケーションを取りやすい関係を作りながら指導する。 ・授業や補習を通して自学自習のできる様に指導する。 ・実習・座学を通して工業教育へ興味関心を高め、個々の能力にあった学科選択を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、基本的な生活習慣が確立されており、堅実な生活態度を守ることができた。 ・学年で資格取得に向けて業後の補習を組み、良い結果を残すことができた。 ・提出物については、特定の生徒の遅延が目立った。引き続き指導する必要がある。 ・生徒へのきめ細かな指導や面談により、それぞれの適性にあった学科選択を滞りなく行うことができた。
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識の高揚を図り自分の将来について真剣に考えさせる。 ・普段の生活で継続的に、学校行事で重点的にクラスの連携を深め、コミュニケーション能力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し、希望調査の実施とそれに合わせたアドバイスを行うことで、目標設定の方法を指導し来年に向けた意識付けを行う。 ・クラスメイト同士が積極的にかかわり、普段の生活や修学旅行などの学校行事に協力して取り組むことで、他人との意思疎通方法を学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講話やガイダンスを通して、将来に向けた意識の拡充や、各クラスのLTの時間を用いて求人票に目を通す機会を作るなど、進路選択に向けた意識付けができた。 ・修学旅行は延期になってしまったが、体育祭や文化祭などに対し中心的に活動し、協調性を身に付けることができた。延期になった修学旅行でも引き続き指導したい。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の能力や適性を十分に把握し、生徒に適した進路選択ができるように指導する。 ・社会人としてのモラルやマナーをしっかりと身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRやLT活動、個人面談を通して、生徒の進路希望について十分に理解する。また、進路指導部や担任間でも連携を図り、職業講和の充実や校内企業説明会への参加を積極的に促す。 ・学校生活や修学旅行などを通して、社会人として必要なモラルやマナーを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と一体となり、企業説明会の参加や作文添削の機会などを設け、就職試験に向けて意識付けすることができた。また、生徒、保護者の希望を面談等で把握し、多くの生徒が希望した進路を選択することができた。 ・社会人としてのモラルやマナーを学校生活や修学旅行などを通して伝えることができた。また、LTの時間を活用して、卒業後の新生活に向けてスーツの着こなし&身だしなみセミナーを行うことができた。
	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止等により実施できなかった目標もあったが、アンケート結果は概ね良好であった。また、昨年に引き続きコロナ禍であったこともあり、毎日の健康観察や手洗い、換気、消毒などを心がけ、生徒自身が健康への意識を高めることができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、昨年に引き続き学校行事や部活動の公式試合など延期や規模の縮小となり、生徒の活躍の場が少なくなってしまうが、全校集会等も行うことができ、本来の活気ある学校生活を取り戻している。 ・今年度の求人状況は、新型コロナウイルス感染症以前の状況に回復しつつあり、希望する企業に選択できた生徒が多かったが、景気に左右されない求人が得られるように、人材育成を目指し、生徒により一層の力を付けさせたい。 	